

アッツ島の遺品

— 兄から妹に73年ぶりに届く —

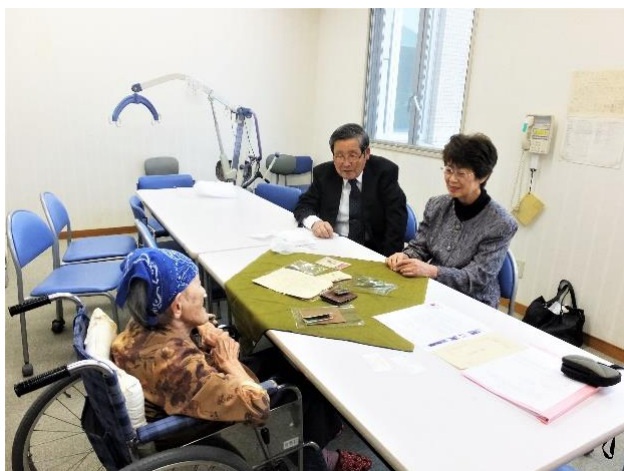
昭和18年5月玉砕の戦地、アッツ島で亡くなった、旧伊野町出身の前田錦三郎さんの遺品が、去る11月10日、73年ぶりに妹永子さんの元に届けられました。

遺品は、財布、階級章、印鑑、俸給支払証票などのほか、戦地でつづったと思われる短歌が書かれた紙などで、そのうち俸給支払証票には、兵長として支給されたことと、所属部隊名が北海道余市町に駐屯していた暁第六一七四部隊小林隊と記録されていました。

この遺品は、アリゾナ州に住む元米兵の孫が保管していたが、日本兵の遺品返還活動をしているアメリカの民間団体「OBONソサエティ」を通じて、日本遺族会に返還の申し出があり、県遺族会の引き取り先の調査により、返還にこぎつきました。

返還にあたって、仲介していただいたOBONソサエティ代表者から、遺品を保管してきたお孫さんの「この度の遺留品の返還が少しでも心の平安と慰めになれますように」

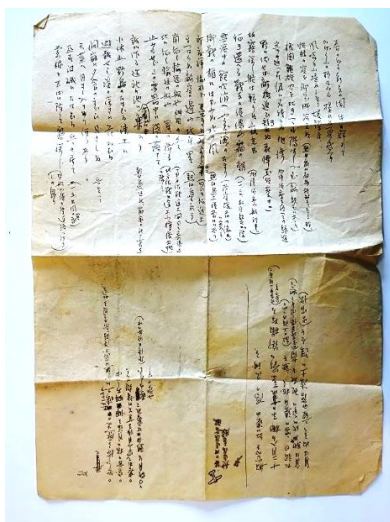
との言葉が添えられていました。現在、いの町の高齢者施設に入所している永子さんは、「もう戦争も終わってずいぶんになる。何かのご縁で戻ってきたもので、大切に兄の形見としてそばに置いておきたい。戻してくれた方には、心からお礼を申し上げます。」と、時折言葉を詰まらせながらお話をされました。



前田永子さんと、いの町遺族会門田会長、高知県遺族会大石会長

アッツ島は、北太平洋アリューシャン列島にあり、日本軍が占領した後、奪還を目指す米軍との間で、昭和18年5月12日から同月29日までの17日間の戦闘の末、2千人

以上の日本兵が全滅し、当時大本営が初めて「全員玉砕」を発表したことで知られている。



※平成28年12月高知県遺族会報掲載